

イタリアから学ぶインクルーシブ教育

～ともに学ぶ教育の実践～



introduction

日本は2014年に障害者権利条約に批准し、インクルーシブ教育を実現することを国際的に約束しました。インクルーシブ教育とは、障害の有無や性別、人種、宗教などに関わらず、全ての子どもたちが同じクラスで共に学び育つことです。しかし、学校はいまだに全ての子どもに「いらっしやい」という姿勢ではなく、必要な支援を話し合う前に地域の学校に入ることを諦めさせられ致し方なく特別支援学校を選んだり、高校や大学においてもユニバーサルデザイン化が進んでいない等により選択肢が限られてしまっています。昨年度に開催したシンポジウムでは、カナダは、障害者の脱施設の運動からインクルーシブ教育へと繋がりが「全ての子どもが地域の学校で学ぶことは子どもの権利である」ことが根付いてきた歴史を学ばせていただきました。今回はイタリアのインクルーシブ教育を現地で研究された方と、関西でインクルーシブ教育を広げる取り組みをされている障害当事者の方から学ばせていただきます。

登壇者の皆様



神奈川県立鶴見支援学校教員。東京大学教育学部非常勤講師、東京大学バリアフリー教育開発研究センター協力研究員。専門はイタリアのインクルーシブ教育。イタリア国立ヴェネツィア大学大学院および放送大学大学院修了。現代書館のWebサイトにて、2023年4月～翌年3月までのイタリア滞在の記録『フルインクルーシブ教育の現場を訪ねて』を連載。



岡崎自立生活センターぴあはうす所属、愛知県蒲郡市出身。小学1年生～4年生まで岡崎市の特別支援学校、小学5年から蒲郡市の学校に転校。通常学級に在籍し、中学まで地域の学校に通い、高校から大学まで私立学校に通っていた。愛知県重度障害者団体連絡協議会教育部会のメンバーとしてインクルーシブ教育の実現に向けて日々活動している。



兵庫県西宮市にあるCILメインストリーム協会所属。1984年生まれ、脳性麻痺があり車いすユーザー。豊中市立東豊中小学校、同市立第十五中学校、大阪府桜塚高等学校定時制に通う。「障害者に対する差別や偏見、間違っただけ先入観は、小さい頃から分けられている環境が生み出しているのではないかと教育の仕組みにアプローチしなければ、世の中の障害者差別がなくなっていくんじゃないか？」と思い活動している。



CILメインストリーム協会所属、脳性麻痺があり車いすユーザー。1989年生まれで地元の私立清心保育園に入園、後に三木市立緑が丘小学校（特別支援学級に入っている学校生活）、同市立緑が丘中学校（学内介助が認められず、母親同伴で学校生活を送る）、兵庫県立三木北高等学校、関西学院大学へと進学。自身の支援学級在籍の経験から、分けられずに一緒に学ぶ教育が良いのでは？と思い、教育の分野で活動している。

日時:令和6年12月1日(日)14:00～16:30 ※入室13:45～

場所:オンライン(ZOOM) 参加費:無料

申込〆切:11月24日(日)

〆詳細は裏面へ



後援：愛知県教育委員会、刈谷市教育委員会、
東京大学バリアフリー教育開発研究センター

スケジュール

13:45～入室開始

14:00～挨拶

14:05～講演 講師：大内 紀彦 氏

(神奈川県立鶴見支援学校教員)

14:55～休憩

15:10～シンポジウム

ファシリテーター：佐藤 元紀 氏 (自立生活センターアクセル)

登壇者：大内 紀彦 氏 (神奈川県立鶴見支援学校教員)

鍛冶 克哉 氏 (自立生活センターメインストリーム協会)

数矢 雄 氏 (自立生活センターメインストリーム協会)

市川 達朗 氏 (岡崎自立生活センターぴあはうす)

16:20～質疑応答

16:30 終了

お申込方法

①Googleフォーム：<https://forms.gle/s5ezc74NeXFSCCuXA>

②電話：052-851-5240またはFAX：052-851-5241

③Eメール：aijuren.kyouiku@gmail.com

以下の項目を明記してお申込みください。

- 氏名 ・ 所属 ・ 連絡先 ・ Eメールアドレス
- 必要な配慮 (例：手話通訳、要約筆記など)



《お申込みQRコード》

お問合せ先

愛知県重度障害者団体連絡協議会教育部会 (担当：佐藤)

TEL：052-851-5240 FAX：052-851-5241

Eメール：aijuren.kyouiku@gmail.com



WELCOME

